



ゲームの



中の幽霊

川崎ゆきお

それはモンスターなのだが、そうではないようにも思える。それを見たのはモンスターがいる場所だ。いつもいるモンスターとは別のモンスターがいたのだ。ただ、それはモンスターかどうかはまだ分からない。

岸本は久しぶりにオンラインゲームをやっていた。モンスターを倒しながら旅するRPGゲームだ。

五年ぶりだ。

ゲームの中の町は変わっていない。いつもいる武器屋の親父はそのままで、同じことをいつも喋っている。「武器だけに頼っちゃいけない」と。

防具屋の女主人は「金を惜しんで命を落とすな」と。

岸本は、この変わらぬ様子に、安堵感を覚える。懐かしい場所に帰ってきたような。

このゲームは五年前オープンしたとき、町の広場は足の踏み場もないほど人で溢れていた。市が立ち、個人商店が轟めいていた。

その広場は祭りの後のように静まりかえり、ゴーストタウンと化している。

岸本はいつものように雑貨屋でクエストを貰い、雑魚キャラ狩りに出かけた。

町の門を出ると、のどかな草原で、草むらや田畑が広がっている。少し行くと低い丘があり、そこから平野部を見下ろせた。

モンスターは、レベルの低い雑魚キャラで、レベル1のモンスターに倒されるようなことはまずない。

モンスターと言ってもイノシシのような動物や空飛ぶ大きな虫だ。

それらはモンスターなのだが、そうではないものが横切った。岸本はこのゲームをほぼクリアしている。そのため、登場するモンスターを知っている。しかし、そのどれにも当たらない。

また、この平原部には二種類のモンスターしか出ない。

岸本はその妙なモンスターを追いかけた。丘の下にある岩場へ入り込んだものと思われるのだが、姿がない。

その姿だがはっきりと見たわけではない。同じようにプレイしているキャラだろうか。

岩場でレーダーを見る。敵がいると赤い点で示される。近くに二つの点がある。周囲を見ると、イノシシと虫がいる。

プレイヤーは緑の点で示される。岸本と同じように狩りをしているキャラがいるのなら、それで分かる。

岸本は岩場を回り込むと、さっと走り去ったものがある。

「こいつだ」

レーダーには映っていない。だから第三の何かだ。

先ほど見たそれは、小さかった。モンスターにしては小さい。また、プレイヤーキャラにしても小さい。それほど小さく身長を短くできないためだ。

「ゲームの中の幽霊」

岸本は噂では聞いていたが、実物を見るのは初めてだ。ゲーム中に出てくるシステムキャラでもなく、誰かが作ったキャラでもない。ゲーム世界の中で沸くキャラなのだ。

確かにこのゲームは五年経過し、ほとんど人が来なくなってから久しい。そのあたりで沸くとの噂がある。

「機械の中の幽霊」

岸本はそれを見たことになる。

そして、岩場をくまなく探していると、石の間に挟まっているモンスターを見つけた。小刻みに動いている。小さな尻と尻尾が見える。

岸本は攻撃を加えるが、攻撃できないタイプのようなのだ。するとモンスターではない。

次に岸本はバトルモードに切り替えた。これはプレイヤー同士の戦闘が可能になるモードだ。すると、攻撃が可能になった。

「誰だろう」

ソードを一振りする。敵の情報が見えない。ターゲットとしてとらえていないのだ。

岸本は、さらにその周辺を調べる。

岩場から少し離れた窪みに、死体があった。岸本と似たような扮装だ。だから、戦士だろう。ということはプレイヤーキャラなのだ。しかし死体はリアルだ。白骨化していた。こんなものは今まで見たことがない。

すると、あの小さな尻と尻尾の幽霊は、ペットということになる。

主を亡くしたペットが、その近くでうろろうろしていたのだ。

しかし、それはあり得ない。なぜなら、先ほど、そのペットは岸本の前を横切ったではないか。

それに倒れたまま放置しても、消えるはずだ。そこで消えなくても定期メンテナンスの時、消えるはず。

「別のゲームになっている」

これも含めてゲームなのだ。そういうゲームに作り替えられていたのだろうか。

つまり、廃墟ゲームとしてリニューアルされたのかもしれない。

岸本は怖くなってきた。五年前のゲームは五年前のままではない。多少の変更はある

。しかし、ここまで変更する必要はない。

やはり、古いゲームで、しかも誰もやらなくなったオンラインゲームに出るというあの噂。もしそうなら貴重な体験だ。

了